令和２年度地域教育行政懇談会の開催結果の概要について

１．議題

（１）教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）
（２）次期教育基本計画について

２．日程・出席者等

（敬称略）

地域 日程	地域の教育関係者等	
	氏名	役職
丸亀・坂綾 7 月 28 日(火) 13:00～14:30	十河　靖典	丸亀市ＰＴＡ連絡協議会会長
	中条　啓二	坂出市ＰＴＡ連絡協議会会長
	別所　順子	宇多津町ＰＴＡ連絡協議会会長
	中谷　　清	宇多津町教育委員会教育次長
	田中　直樹	綾川町ＰＴＡ連絡協議会会長
	三好　雅仁	綾川町ＰＴＡ連絡協議会副会長
仲善・三観 7 月 30 日(木) 13:00～14:30	天堵　一公	善通寺市ＰＴＡ連合会会長
	米村　　徹	善通寺市子ども会連合会会長
	柘植　英憲	観音寺市ＰＴＡ連絡協議会会長
	田井　秀典	三豊市教育委員会事務事業点検・評価員
	森本　卓也	琴平町立琴平中学校ＰＴＡ会長
	篠原　好宏	琴平町教育委員会　教育長
	富田　友美	多度津町スポーツ推進委員
	山下　美博	まんのう町社会教育委員長
	阿宅 伸一郎	まんのう町立仲南小学校ＰＴＡ会長
高松・東讃・小豆 8 月 28 日（金） 13:00～14:45	山田　士郎	高松市ＰＴＡ連絡協議会会長
	岡田　　茂	さぬき市ＰＴＡ連絡協議会会長
	森田　浩之	さぬき市ＰＴＡ連絡協議会顧問（前会長）
	六車　裕美	東かがわ市教育委員会事務点検評価委員
	高橋　秀年	土庄小学校ＰＴＡ会長
	諸石　正宣	土庄中学校ＰＴＡ会長
	山本　　睦	小豆島町ＰＴＡ連絡協議会会長
	桑村　泰子	三木町教育委員会事務点検評価委員会委員
	大森　智秋	三木町ＰＴＡ協議会会長
	榧　　貴志	直島小学校校長
	小倉　勇介	直島中学校教頭

３．地域教育行政懇談会の議題に関する意見の概要

教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）

（学力・社会教育等）

○　ＧＩＧＡスクール構想に関して、機器の整備を年度内に完了できるよう進めているところである。一方で、現場の教員からは、実際に機器を使用して授業を実施することについての不安の声も聞いている。県主導で研修等の支援が必要であると考えている。

○　ジュニアアスリート強化プロジェクトについて、町では現在、ハンドボールに力を入れた取組みをしている。少しずつ結果も出てきているので、県としても支援を検討してほしい。

○　共働きの家庭が多く、子供との共有時間をとることが難しい家庭が増えており、地域行事に参加できる人が少ないことが課題としてある。また、ＰＴＡ活動については、ＰＴＡを担ってくれる人が減ってきていることに対して危機感を持っている。

○　読書活動については、23 が 60 読書運動などの取組みによって、本を読む機運が高まっており、保護者としても非常にありがたい。ＰＴＡとしても、読書を継続できる子供が育つ取組みが必要であると考えている。

○　全体的には順調に進められているのではないかと評価している。一方で、不登校児童生徒数が年々増えていることについては心配しており、家庭と学校が連携を取りながら子どものケアをしていくことが必要である。

○　英語学習について、小学校から徐々に英語に慣れ親しみ、恥ずかしがらずに取り組んでいける環境を整備していってほしい。

○　教員の大量退職により、教育力の低下が危惧されていることについては、教員が魅力的なものであるということを、今後もしっかりとＰＲして、香川県に優秀な教員が増えるような取組みを進めてほしい。

○　家庭教育力向上にある、さぬきっ子安全安心ネット指導員などについては、どの程度の人数が実施しているのか。研修日程も含め、受講しやすい環境整備をしてほしい。

○　教員志望者が年々減っている状況の中、受験者を増やすための取組みを県教育委員会でも実施しているが、香川県の教員はこんなに素晴らしいというＰＲをもっと積極的にしてほしい。

○　教員の資質・能力向上も重要である。学校現場で達成感を感じられるような取組みも必要である。学校内で一定の役割を任される中で、責任感が強くなり、教員自身も成長を感じられるということもある。先輩や同僚から色々なことを学びながら学校運営をすることで、成長につながる。県教育委員会としても、学校現場での成長も踏まえて研修計画などを進めていってほしい。

○　小豆地区の特別支援学校整備事業については、できるだけ早く保護者等への情報提供をしてほしい。また、卒業した生徒に対する就労支援についても検討が必要である。

○　幼児教育については、基本的生活習慣の確立が重要であり、学力や体力の面でも影響が出てくる。親子の関わりやコミュニケーションを通じて関係性を深め、基本的生活習慣を育てていけると思う。

○　小学校英語学習環境整備事業に関連して、各市町が進めている一人一台タブレット整備と併せて、その中に英語教材も一緒に組み込むことで、効果的な学習に繋がると考える。

○　保護者と幼児が一緒に成長するための取組みについて、「アートのせんせい」の派遣を受けて実施したワークショップは非常に良かった。今回のコロナの自粛などでストレスを抱えている子どもも多いことから、希望する園で実施できるよう拡充してほしい。
○　ＳＮＳを利用する子どもが増えたことで、トラブルに巻き込まれる事例が発生している。県警との連携など、対応を検討していく必要がある。
○　保護者は子育てに対する悩みや不安を抱えており、それに対して家庭教育推進専門員やさぬきっ子安全安心ネット指導員のワークショップ等を実施しているが、今後も、こういった支援を継続するとともに、希望者が参加しやすい環境を整備してほしい。
○　学力の育成について、今年度、県の学習状況調査が中止になったことで、国語や算数等の取組みの成果をどう評価をしていくかが課題としてある。日々の授業や、単元毎のテスト等は実施しているが、県全体として今年の取組みを振り返る貴重な機会であることから、対応策について検討してほしい。
○　こころの育成として、「いのちの先生」や、「13 歳の自律教室」を実施した。普段、子どもたちと接する教員とは違う方からご指導いただくというのは、子どもたちにとって非常に新鮮で、これからも、活用していきたい。

（点検・評価について）
○　報告書に関して、５か年計画として結果が出てきている項目が多く、良い傾向にあると感じる。一方で、もっと長期的に見ていく必要のある取組みもあると思う。５年の計画や、結果だけにとらわれ過ぎないように進めていってほしい。

（新型コロナウイルス関連について）
○　東京オリンピックの延期や、インターハイが中止となったこともあり、中高生の部活動などに対するモチベーション低下を心配している。今後も新型コロナウイルスによる影響が不透明な状況の中、頑張っている子どもたちのケアや、競技力の維持が課題である。
○　新型コロナウイルスの影響で、例年教員が参加していた講習や講演等が中止になっていると聞いている。今後は、リモートによる対応も含め、内容を精査して、教員の負担軽減につながるよう検討が必要である。
○　新型コロナウイルスへの対応で、学校現場は非常に苦労している。教員が参加している研修等についても、しっかりと体系だてた体制を整備していく必要がある。
○　新型コロナウイルスの影響による休業の影響で、今はいかにその遅れを取り戻すか、ということに学校も尽力していると思う。行事などは中止になっているが、そのような状況の中でも、子どもたちが学べる環境を保護者と学校が一緒になって考えていく必要がある。
○　新型コロナウイルスの影響で各行事が中止となり、目標が無くなってしまい、モチベーションが保てなくなっている子どもたちもいることから、各校の実情によって異なるが、感染症対策をしっかりとした上で、縮小してでも実施することも大切である。

次期教育基本計画について

○　家庭の教育力低下については、その通りと感じる。共働きの家庭が多く、子どもとの共有の時間をとることが難しい家庭が増えている。課題として、地域行事に参加する人たちがまだまだ少ないと感じている。

○　学校が楽しいと感じている子どもや、自己有用感が全国と比べて低いことを心配している。このことについての対策を、次期計画の中に盛り込んでほしい。

○　ＧＩＧＡスクール構想については、次期計画にも盛り込んで、積極的に取り組んでもらいたい。

○　教員のメンタルヘルス対策について、現在の学校現場では、やらないといけないことが多く、管理的な要素が多くなっているように感じる。教員も自分のやりたいことを積極的に取り組める状況ではなく、ストレスがかかりやすく、メンタル不調になる教員も増えていくのではないかと危惧している。県教育委員会が率先して、教員の意欲や能力を発揮できる人事システムを構築し、鬱傾向になりにくい職場づくりを進めていって欲しい。

○　近年は、様々な家庭環境やＬＧＢＴへの対応など、先生に負担がかかっている。また、経験不足の先生へのフォローも必要となる。先生の負担軽減をより強く図ってほしい。

　タブレットを活用した教育については、専門的な知識を持った先生も必要になることから、教科担任についても考えていかないといけない。

　色々な先生が関わりながら、子ども一人ひとりに向き合っていく時間を確保していくことが大切である。

○　特別支援教育について、小学校に上がる段階で、特別支援学校を選択するか、地域の小学校で通級指導教室を活用するか、特別支援クラスにするかについて保護者は思い悩んでいる。特別支援学校も在籍者数が増えていて、地域の学校という受け皿が必要になってくると思う。できれば、小学校に特別支援の免許を持った先生方が当たり前のように在籍して、可能な限り子どもたちが地域の学校で成長できるようにして欲しい。また、追加の免許講習制度があるということを、先生方にも広く周知して欲しい。

○　自己有用感が全国平均より低いということは、子どもたちが先生方に認めてもらえていないと感じながら学校に通っている部分もあると思う。先生に認めてもらえるとモチベーションも上がり、学ぶ意欲にも繋がってくるので、そういう部分にも目を向けた人材育成をして、生徒たちのやる気に繋がっていく教育になれば、結果も変わってくると思う。

○　今後はグローバル化の中で、子どもたちの英語力の向上は大切だと思う。英語は、苦手意識を持ちやすい教科だと思うので、習うより慣れろではないが、アクティブラーニングとか、子どもたちが興味を持ちやすいような勉強の仕組みが必要になってくる。

○　新しい生活様式で、人と人との距離は取らないといけないが、学校、地域、保護者が連携して、心の距離は離れないような取組みを、新しい計画には盛り込んでほしい。

○　自己有用感がなかなか高まらないことが課題であると感じている。子ども自身が目標を持ったら、それを自分で最後まで頑張ってやる。達成できればいいし、失敗してもう１回やり直すとか、そういう取組みが大事である。ほったらかしではなくチャレンジを見守る、という繰り返しがとても大切だと思う。